

Reader's VIEW

2019 Vol.4 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) でご覧いただけます。

◎地方の教育行政では、少子化の影響による小中一貫教育が重要なテーマであり、今回の特集はタイムリーな話題でした。特に要点整理では、東京大学大学院・藤江康彦教授の「資質・能力は、『育む』ことよりも、『引き出す』『見いだす』ことが重要」という考えに、大いに共感しました。そうした考えに立ち、教育委員会がリーダーシップをとって小中一貫教育の環境を整え、各校のカリキュラム作成を支えることの重要性が分かりました。(山口県)

◎特集の要点整理が、とても参考になりました。今の小中一貫教育の状況を知ることができ、実施する背景が多様化していることを改めて理解できました。(山形県)

◎小中一貫教育は学力向上のためにも必須であり、本市でも持続可能な取り組みを目指しています。その観点から、特集の先行事例はぜひ参考にしたいと思いました。(埼玉県)

◎本市では、地域特性を生かす方針の下、独自の小中連携を進めています。取り組みがマンネリ化していたのが気になっていましたが、今回の特集でいろいろな実践例を知ることができました。(岡山県)

◎「特別企画 いじめを未然に防ぐ学級経営を考える」の記事で、「いじめをすべてなくすことはできない」という芦屋市立宮川小学校の俵原正仁校長の言葉に、勇気をもらいました。いじめをなくすことはできないから、学級づくりが大切、という考えは、当たり前なことでありながら至言です。また、教員は学び続けることが重要、というキーワードも素晴らしいと感じました。(宮城県)

◎「特別企画 いじめを未然に防ぐ学級経営を考える」の中で、私立追手門学院^{おうてもん}小学校の多賀一郎先生が、「学級経営で何より大切なのは、担任が楽しそうにしていることです。(中略)教員が楽しそうに授業をし、ホームルームや

休み時間に笑顔で子どものそばにいれば、子どもたちも笑顔になります」と言われていました。その中の「担任」や「教員」を「校長」に、「子ども」を「職員」に置き換えて実践すれば、学校経営としてもうまくいくのではないのでしょうか。それが、記事の最後に俵原校長が述べられていた、「子どもは『学校が楽しい』、先生方は『教員の仕事が年々楽しくなっていく』と思えるような学校づくり」に直結するのだと思いました。(新潟県)

◎いじめは、教員が多忙であろうとなかろうと起こる可能性があります。教員が児童生徒にどれだけ目と声と心かけるかにより、子どもの心の死角が広くも狭くもなるのではないかと、長年の経験から思います。「特別企画 いじめを未然に防ぐ学級経営を考える」で多賀先生が言われていた、早期発見にチーム力を、という考えには大いに賛成です。先生たちは大勢で君たちを見ている、というサインを出し続けることが重要だと思います。(岐阜県)

◎多様性が今後の教育の鍵となる中、連載「教育長が語る Leader's VIEW」の津市教育委員会・倉田幸則教育長の記事が参考になりました。ダイバーシティを意識した学校経営に努め、共生社会の実現を経営方針の中核に据えたいと思います。(北海道)

◎連載「教育施策で導くわがまちの未来」で紹介された新潟県三条市の取り組みは、とても考えさせられるものでした。若者が都市部へ流出する傾向は、本市でも同様です。そうした中で、地域を愛し、故郷を誇りに思う子どもをどのように育てていくかが、本市の課題です。(岡山県)

◎連載「データで教育を読む Benesse Report」で紹介された小学校高学年のメタ認知の実態の記事は、特に関心を持って読みました。メタ認知の高低の差が、学習方略の違いに表れることも改めて分かり、興味深かったです。(山口県)

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、通常よりも時期を遅らせた発刊とさせていただきます。8月現在、先生方や子どもの感染も報告されており、予断を許さない状況です。今号は、春の全国一斉臨時休業を様々な立場の方と振り返りながら、今後を考える特集を組みました。取材させていただいたどの先生も、今回の事態を前向きに捉えようという強い思いを口にされており、大変心強く感じました。(久保木)

VIEW21

教育委員会版 2020 Vol.1

2020年9月4日発行/通巻21号

発行人 山河健二
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 研精堂印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太
 撮影協力 荒川 潤、岸 隆子、
 ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17